



デジタル活用で鉄骨建方作業を一新！

『楽直』導入で進化するスマホ活用の建築 DX

静岡県浜松市に本社を置き、静岡県西部を中心に福島から福岡まで幅広い地域で事業を手がける中村建設株式会社様。今年で創立 70 周年を迎える土木・建築一式を請け負う総合建設業者で、ほかにも不動産開発から産業廃棄物処理、発電事業など幅広く事業を展開されています。同社はこの度、“杭ナビ”と鉄骨建方アプリ『楽直』からなる鉄骨建方誘導ソリューションを導入されたとのこと、実際に使われている現場にお邪魔して建築本部 建築部の村松様と西村理玖様にお話を伺いました。

一 『楽直』を導入した経緯をお教えてください。

村松様：鉄骨の建方作業、簡単に言ってしまうと柱を垂直に立てることで、従来からの方法では柱に直交する 2 方向からトランシットで見ながら傾きを調整します。トランシットが 2 台あれば両方向から一度に調整できますが、1 台しかない場合は何度も据え換える



建築本部 建築部
村松様

必要がありますので、時間も手間もかかる作業なのです。現場の作業負担軽減を検討していた施工支援グループが、展示会のトップコンプースで『楽直』を見つけ、「これなら作業効率が上がる」と考え導入したと聞いています。

一 『楽直』で作業はどのように変わりましたか？

村松様：従来の方法ですと、どうしてもトランシットが据えられない場所があったりして、手間取ることも多々ありました。『楽直』なら任意の場所に“杭ナビ”を据えて作業ができますし、手元のアプリ画面に柱の状況が全て映り、タイムリーに確認できます。操作を覚えるまでは少し戸惑いましたが、覚えてしまえば作業はとても簡単だしスピードも速いし、精度も高くなりました。

今回の現場であれば、1～2 時間は作業時間の短縮になっているのではないのでしょうか。鉄骨の本数にもよりますが、工事の規模が大きければ大きいほど作業時間短縮の効果は高いと思います。

西村様：スマホの画面を見ながらできるので、想像していたより簡単に利用しやすかったです。また、それぞれの柱の角を 4 画面で見たり測りながら調整できるので、従来方法よりは分かりやすいと思います。



建築本部 建築部
西村理玖様

村松様：上司に報告する際も、画面で状況が見えますから早く簡単になりましたね。また、帳票を PDF に書き出してメールで送れることも便利です。今まで成果は手書きでしたから、施工管理の信頼性向上にもつながっています。

一 従来法と精度を比較してみたと言いました。

村松様：初めは『楽直』の精度が分からなかったですし、試したかったこともありまして、トランシットで確認しながら作業してみました。結果、トランシットで測った値と『楽直』に表示されている数値が全く同じ、精度の差が 0 だったので安心できました。

一 今後は若手社員の活躍に期待できそうですね。

村松様：若手は普段からスマホなどを使っているので、アプリを使うのは得意だと思います。新入社員でも簡単に覚えられて、1 人で作業できているようです。

西村様：私は現場に出るようになって、まだ半年です。今回の現場では『楽直』を利用していますが、現場によっては杭を打つところから“杭ナビ”を使ったりもしています。自分で言うのも恐縮ですが、会社の戦力になっているという自負はあります！

ユーザー名：中村建設株式会社
URL：<https://www.nakaken.co.jp/>
使用機種：レイアウトナビゲーター LN-150
鉄骨建方アプリ 楽直

『鉄骨建方誘導ソリューション』
詳しい情報は

